

学力向上とインクルーシブ教育推進に向けての取組

守谷市立大井沢小学校

1 はじめに

学力向上とインクルーシブ教育の推進のために、「意欲的に学習に取り組み『わかる喜び』を味わう児童の育成～ユニバーサルデザインと合理的配慮を取り入れた授業づくりを通して～」という研究テーマをたて実践研究に取り組んでいる。すべての児童が学習に参加し「わかる」ためのユニバーサルデザインの授業づくりとともに、特別な配慮を要する児童への合理的配慮を行い児童の特性に応じた支援を行っている。また、合理的配慮を円滑にするために開発的カウンセリング（構成的グループエンカウンターや対人関係ゲーム等）を取り入れ他を認め合える学級づくりにも努めている。本校は、標記の研究主題のもと国語科、算数科の2教科を中心に、ユニバーサルデザインの視点と合理的配慮児童を踏まえた授業づくりに取り組んでいる。

2 研究内容

(1) 授業研究等の取組

研修日	形態	研 修 の 内 容 等
5月7日	全体	研究の方向性、年間計画について検討と確認
6月3日	学年・全体	提案授業①（あすなろ学級 国語 村松静）
6月16日	学年・全体（要請訪問①）	提案授業②（3年1組算数 伊津野和泉）
夏休み	全体・各プロジェクト	学力向上に向けた本校児童の実態分析と対策の検討等
8月27日	自主研修	研修センター公開講義（ユニバーサル）に参加
10月6日	学年・全体	提案授業③（5年3組算数 戸塚資）
10月24日	学年・全体（要請訪問②）	提案授業④（6年4組国語 柴崎亜紀） ※滋賀県湖南市立水戸小学校から視察
11月17日	学年・全体	提案授業⑤（1年3組国語 國分歩）
12月1日	学年・全体	提案授業⑥（4年3組国語 荒川裕子）
1月26日	学年・全体（要請訪問③）	提案授業⑦（2年3組算数 柿原陽子）
2月16日	各プロジェクト→全体	本年度の反省と次年度の研究の進め方の検討
2月下旬	各プロジェクト	ユニバーサルの視点からの校内環境の確認と整備 児童の実態調査、本年度の研究のまとめ（紀要作成）

(2) ユニバーサルデザインと合理的配慮による授業づくりでの取組

〈ユニバーサルデザイン〉

- ① どの児童も安心でき落ち着いて生活できる教室環境の整備【時間の構造化、黒板周りの刺激の除去、カラーユニバーサルを意識したチョークの使用等】
- ② すべての児童が安心して学校生活を送るためのルールの確立【生活・学習のきまり（学びのプラン）、分かりやすい当番・係表の掲示、授業中の机上の配置等】
- ③ 児童相互、教師と児童が互いに支え合うリレーション【心のプロジェクトからの開発的カウンセリングの実施等】
- ④ 児童の意欲につながる発問や指示の工夫【課題の焦点化、教材のしかけづくり（間違いからの出発・空白のある問題）等】
- ⑤ 児童の多様な学びに配慮した教材・教具【写真や絵等の提示（視覚化）、ICTの活用、今どこかわかるような目印など板書工夫（書きすぎない）等】
- ⑥ どの児童も集中できる授業構成【動作・作業を取り入れる（動作化）、既習事項を取り入れる（スパイラル化）、ペア・グループ活動を取り入れる（共有化）等】

〈合理的配慮〉

- ① 個性や特性の把握【観察等から実態の把握、特別支援担当と連携等】
- ② 困難を改善・克服するための配慮【別の声かけ、役割を与える等】
- ③ 学習内容の変更・調整【個性にあった課題の内容と学習量等】
- ④ 教材の配慮【学習方法・教材の自己選択、実態に応じた支援ツールの活用等】

(3) 学力向上と一貫教育の視点での取組

〈朝20分わくわく授業〉

- ① 「わくわくキャラバン」（月・火）で校長・教頭・副担を含めた全職員での算数指導の実施による基礎学力の定着化
- ② 「名文視写」（水）による表現スキルの向上

〈小中一貫教育〉

- ① 「学びのプラン」の重点化による学習スキルの定着

② 「家庭学習の手引き」活用による家庭学習の定着。

(4) その他

① OJT研修の充実による若手教員の指導力向上

ア 学年・特別支援学級毎に2回の授業公開と若手教員の参観（2学期）

イ 若手教員による提案授業の実施と若手教員所属学年職員、研究推進委員、プロジェクトによる提案授業の検討、教材作成支援。

3 成果と課題

〈成果〉

学年を中心に提案授業を行うことで、どの学年・学級でもユニバーサルデザインの視点、合理的配慮が必要とされる児童を踏まえた授業づくりをするようになった。そして、多くの児童が授業へ参加し、活動に取り組めるようになった。

「焦点化」、「共有化」、「視覚化」を意識した授業が多く行われ、「課題に焦点化できるような問題提示の工夫」、「タブレットの電子黒板等のICT機器やニホホワイトボードの活用」、「共有化や合理的配慮児童への対応など目的に応じたグループ・ペア学習の導入」等の指導が定着した。3学期、環境プロジェクトを中心にユニバーサルデザインを取り入れた教室環境に整備を進めることができた。

〈課題〉

学力向上には自ら学ぼうとする意欲を高める必要がある。そこで、家庭学習の内容や進め方について更なる改善に努めていく必要がある。また、学力診断テストにおける児童の点数の分布等の結果等から、学力下位の児童の底上げになっているか、児童の学習意欲が高まっているか、をさらに分析し授業等の改善に努め学力向上とインクルーシブ教育推進に努めていきたい。

学校をきれいに－無言清掃の取り組み－

守谷市立大井沢小学校

1 無言清掃の取り組み

本校では、清掃活動に力を入れている。昨年度まで、教室や廊下などの清掃の仕方が学級によってまちまちであったことから、今年度は、教室やトイレなどの清掃の仕方を統一した。児童たちは、掃除の仕方が分かり、以前よりも無言清掃に取り組めるようになった。低学年では掃除の分担を細かくし、一人一人が自分の仕事に責任をもって行えるようにした。

清掃時間は、全員が紅白帽子をかぶりマスクをつけて無言で行っている。マスクは衛生面とおしゃべり防止の両方の役目を担っている。マスクは給食で使ったものを使い、毎日、持ち帰って、きれいなものを使うように指導している。

2 トイレ掃除は自分たちの手で

本校では、学年のトイレは自分たちで掃除を行っている。以前、低学年のトイレは高学年の児童が掃除をしていたが、低学年は、トイレの使い方が上手にできない、サンダルが乱雑になりがち等の理由から、自分たちで使うトイレは自分たちできれいにしようという取り組みにした。1年生からのトイレ掃除の取り組みは2年目になるが、掃除の仕方にも慣れ、きれいに出来るようになってきた。



3 成果と課題

(1) 無言清掃はだいぶ定着してきており、教室やオープンスペース、廊下など隅々まで無言できれいにできるようになってきている。環境美化委員会が毎週、掃除用具の点検を行っているので、掃除用具の整頓にも気を付けるようになってきた。

(2) 自分たちの使うトイレを自分達できれいにすることで、トイレの使い方が上手になり、きれいに使うようになってきた。次年度はトイレのサンダルの整頓にも一人一人が気を付けられるようにしていきたい。

(3) トイレでは、清掃の後、ドアノブや便器の中に、「EMW」を撒いている。「EMW」は殺菌と消臭防止効果があり、児童達から「トイレの悪臭が消えた」「トイレがピカピカ」等の声が聞かれるようになった。「EMW」は、トイレや教室をきれいにする「魔法の水」として、児童達は掃除の仕上げに使用している。毎日、熱心に取り組む児童の姿がたくさん見られるようになった。